

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

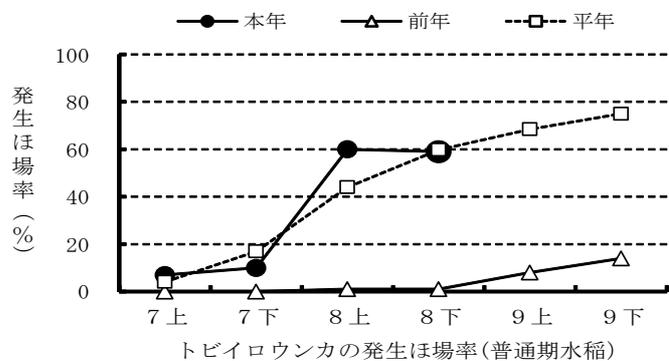
令和元年度 病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、発生予察注意報第1号（普通期水稻のトビイロウンカ）を發表します。
本年はトビイロウンカの飛来量がやや多く、これまでに技術情報第1号（8月9日付け）等で適期防除を呼び掛けてきましたが、8月16～26日の巡回調査において、トビイロウンカの発生密度が一部のほ場で高まっているのが確認されました。

ついては、既にトビイロウンカが発生しているほ場では、本情報を基に適切な防除を行うとともに、防除後も本虫の発生動向には十分注意してください。

病害虫発生予察 注意報第1号

- | | |
|--------|-----------|
| 1 農作物名 | 普通期水稻 |
| 2 病害虫名 | トビイロウンカ |
| 3 発生地域 | 普通期水稻栽培地帯 |
| 4 発生量 | やや多 |



5 注意報発令の根拠

- 8月23日に行った県農業開発総合センター内(南さつま市金峰町)の定点ほ場(無防除)調査の結果、株当たり虫数が45.1頭(成虫4.5頭、幼虫40.6頭)と多かった。
- 8月16～26日に県内31地点(62ほ場)で行った巡回調査の結果、発生ほ場率は59%(平年60%)と平年並みであったが、発生程度が中発生以上のほ場率が0から8%に増加し、発生密度が一部のほ場で高まっているのが確認された(表1)。
- また、発生ほ場のうち、増殖率が非常に高い短翅型雌成虫の発生ほ場率が44%と依然として高く、気温もほぼ平年並みと予想されており、本虫の増殖に好適な状況が続くことから、今後、坪枯れ被害の発生拡大が懸念される。

6 防除対策及び防除上注意すべき事項

- 既に本虫が発生しているほ場では、7月13～15日飛来虫に由来する第2世代幼虫の防除(防除適期:8月30日～9月4日)を徹底する(参考資料の発生経過予測図参照)。
- 育苗箱施用剤を使用していないか、使用していてもウンカ類に効果が高い新剤のトリフルメゾピリム剤を使っていない場合、並びに飼料用稲については、今後も本虫の発生密度が高まる可能性が高いので、特に注意する。
- 中～晩生品種は収穫期までの期間がまだ長く、坪枯れ被害を生じる危険性が高いことから、特に注意する。
- 発生状況は地域やほ場によって差があるので、防除にあたってはほ場毎に確認する。
- これまでに防除を行ったほ場でも、依然として発生密度の高いほ場が認められているので、ほ場の中まで入って発生状況を確認し、発生を認めた場合は早急に防除する。
- 本虫は稲の株元に生息するので、粉剤や液剤で防除する場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布する。
- 薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守し、薬剤の飛散防止に努める。

(参考資料)

トビロウンカの有効積算温度による発生経過予測図 (鹿児島地方気象台：加世田のデータを使用)

鹿児島県病害虫防除所 令和元年8月27日 作成

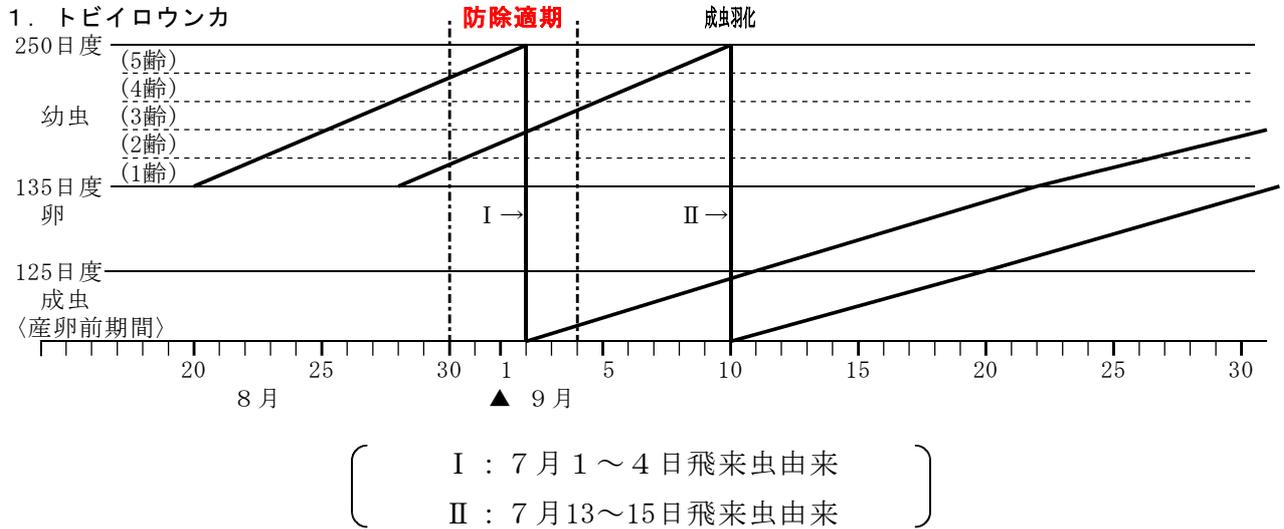


表1 巡回調査におけるトビロウンカの発生状況 (調査日：8月16~26日)

地域名	調査ほ場数	程度別発生ほ場率 (%)				
		甚	多	中	少	無
南 薩	10				20	80
北薩平坦	24			4	54	42
北薩山間	22	5	5	5	32	55
大 隅	6			17	83	
県計(平均)	62	1	1	6	51	41

※ 平年は2009~2018年の平均値

※ 巡回調査地点

南 薩：南九州市知覧町永里・川辺町古殿・川辺町勝目

日置市伊集院町大田，いちき串木野市大里

北薩平坦：鹿児島市東佐多町，始良市三拾町・蒲生町楠田

霧島市隼人町住吉・国分上小川，薩摩川内市宮崎町・高江町

出水市野田町屋地・高尾野町東干拓，出水市六月田

薩摩川内市入来町浦之名，阿久根市鶴川内

北薩山間：さつま町宮之城平川・宮之城時吉・鶴田大角・中津川，薩摩川内市祁答院町上手

伊佐市菱刈前目・田中，伊佐市大口金波田・木崎・山野，湧水町北方

大 隅：曾於市末吉町高松・大隅町笠木，鹿屋市野里

※ 程度別発生基準

(単位：頭)

発生程度	無	少	中	多	甚
払い落とし株当たり虫数	0	1~5	6~20	21~50	51以上